

花ぐもり

作：鈴木麻名実

三月中旬。二十三時頃。

ゆりの自宅。ある程度の築年数が経ったアパート。間取りは2K。

十畳程の部屋と上手奥の襖の向こうにゆりが寝室として使う部屋がある。

下手手前に玄関に繋がるキッチンがある。

十畳の部屋には、中央にソファ、ローテーブル、ゴミ箱。

ローテーブルには、大きなマスケットのついたさくらのスマホオとクラッカーが置いてある。

下手奥に布団と大きなスーツケース。近くの壁には何もかかってない服がいくつか掛かっている。

上手手前には小さな仏壇がある。

さくら、キッチンからケーキを二つ持って入ってくる。

ケーキをローテーブルに置いて、そのケーキをにんまりと見る。

そして、壁にかけてある時計をちらりと見た後一つ溜め息を吐き、ローテーブルのスマホオを手に取り電話をかける。

さくら

あ、ちよつと岡うち！ ゆり姉帰ってこないんだけど！ ホントに鶯谷送った後に電話したの！？ 店出た時とかじゃなく！ ……えーでも、ゆり姉まだ帰ってこないよ！ さくらの考えに考えぬいた大作戦が、どうしてくれるのさ！ もうさくら、プンプン丸だよ！ ……え？ 何で岡うちがプンプン丸なのさ！ ……泣きそうな顔って、え、最後ついたお客様？ なんで？ ……えー、さくらきちんと生理なっちゃったって言ったよ？ ……はっ、確かに童貞さんって言ってたから、そうか、気にしちゃうのか。……むー、さくらだつてびっくりしたんだよ、明日くるって思ってたから。……だつていつもはピル飲むのやめて三日経ってからくるのに早くきちゃって。……わかつたよー。今度からなりそうなきも海綿くんいれるよー。……え、問合せって誰から？ (玄関から鍵の開ける音が聞こえ) 帰ってきた！

さくら、何も言わずに電話を切って、急いで部屋の電気を消す。

玄関のドアが開く。

ゆりがソーブランドの仕事から帰ってくる。黒いコートにブランドもののバッグを持っている。

ゆり、電気のスイッチを押す。
部屋が明るくなつてすぐに、パンツとさくらがクラッカーを鳴らす。

さくら おかえりなさいい！

ゆり うわ、ちよつとびつくりさせないでよ。てかあんた今日ラストまでじゃなかつたのね。珍しい。

さくら ふふふ！ じゃじゃーん！（ケーキを自信満々に見せて）

ゆり 何これ？

さくら ゆり姉疲れたでしょ？ たまには甘い物食べたいでしょ？ てことで食べよう！

ゆり いや、別にそんな食べたい気分じゃないし。

さくら 冷たい……。

ゆり （襖奥に入りながら）ごめん、でも今日も勉強しなくちゃだから。

さくら うー！ ゆり姉、コーヒーは飲むよね！？

ゆり （襖奥から）うん、飲むー。

さくら さつきコーヒー淹れ始めたから！

ゆり （襖奥から）あーありがと。それは嬉しい。

さくら でしょ！ 褒めてくれてもいいんだよ！

ゆり （襖奥から）すごい！ 気が利く！ さすが！

さくら なんか適当じゃない！？

ゆり （襖奥から）そんなことないって。

さくら てか、ゆり姉今日九時上がりだったのに延びたんだね。本指さんだったとか？
ゆり （襖奥から）そう。どうしてもって言うから。本指名じゃなかったら帰つたわ。

さくら そか。またヴィトンおじさん？

ゆり （襖奥から）アニメキャラクターの入れ墨の人。

さくら あー、前言ってた！ 入れ墨完成してた？

ゆり （襖奥から出てきて）完成してたよ。なんのキャラだかわかんないけどさ、胸にバーンって女の子がいて。全身リップとかしてると、お客さんの視線とは別にそのキャラクターがじーって私を見てきてさ。いやー、なんか不思議な気分になるわよね、あれは。誰とセックスしてんのかわかんなくなるわ。なにそれ！

ゆり その位すごいんだって。全身入れ墨なんかよりインパクトあるから！

さくら ちよつと見てみたいけど。

ゆり あれ彼女とかできたらどうすんだろ。私絶対無理だわ。って入れ墨なかったとしても無理だけど。

さくら そんななんだ？

ゆり 気を遣ってくれるし悪い人ではないんだけどねー。臭いのよ！

さくら あー、臭いのはきついよね。

ゆり 口はタバコ臭いし酒臭いし、あそこも臭いし。それにワキガの臭いも強烈で。

さくら あのワキガの臭いつてさ、本当ひどい人だと、こっちにも臭い移るじゃない。移るねー。その人もそうなんだ？

ゆり そうなの。しかも「即尺してくれないの？」って。してほしいなら店来る前に綺麗にしてこいってな。前きたときはそんなこと言ってなかったのに、何回か来るとどうして調子に乗ってくんのかねー。ま、無視してマットプレイで徹底的に洗ってやったけど。マットもあんま好きじゃないから長い時間やりたくないのよね。

さくら そうなの？ あわあわヌルヌルーってして気持ちいいのに。

ゆり だってマットってハードじゃない。長い時間やるのはきついよ。さっきなんか必死にマットやってるとき胸の女の子と目が合って。なんか頑張れって励まされた気がしたよね。

さくら すごい！ 女の子役に立ってる！

ゆり ね。女の子に感謝だよ、感謝。あ、そうだ。夜、あんたの客から問い合わせきてたみたいよ？

さくら え、誰？

ゆり 確か……朝倉さん、だったかな？

さくら 朝倉さん！？

ゆり 岡田さんが「僕からも連絡するつもりですが、ゆりさんからも伝えておいてください。その方が確実なので」って。

さくら なにそれ！ てか岡っちとさつき電話してたけどそんなこと聞いてない！

ゆり じゃあ後でラインとかくるんじゃないの？

さくら むー。でもそっかー、朝倉さん会いたかったなー。

ゆり なに、良客なの？

さくら ちよー良いの、セックスが。

ゆり あっそう。

さくら もうすごいよ、一三〇分コースでさくら、何十回もイカされちゃうもん。何なんだろう、あれ。時間経つのがあつという間でさ、やだーもつとやってーって思うもん。あのセックスだったら何時間でもしてたいよ。あー、時間を忘れさせてくれるセックスって本当最高。うーなんか思い出したらムズムズしてきたー。

ゆり いやー、あなたのそのセックス好きには感心するわ。

さくら へへー、ありがとう！

ゆり 褒めてないから。

さくら ぶー。

ゆり まあでも、すごいとは思うけど。私はどんどんセックス嫌いになるわ。客相手にイくとかないし。

さくら イかないとか逆にすごいよね。下手つぴさんとかならともかく、上手い人でもイかないんでしょ？

ゆり イかないねー。てか、ホントに上手い人なんて相当少ないでしょ。自分は上手いって勘違いな男共も多いし。自分勝手な奴らばっか。

さくら 確かに、自分勝手な殿方は良くないよね！

ゆり それ、あなたが言う？

さくら え？ だってセックスってお互い楽しむもんじゃない！ 皆もつと相手の反応を見て、研究しあうべきだよ！ さくらはそう思う！

ゆり 女を性欲処理道具にしか思っていないやつもいるのよ。

さくら そんな淋しいこと言つてー。

ゆり だがしかし、そんな男共のお陰でお金を頂いてるからね。店に来る人にはきちんといつてる振りをするわよ。

さくら プロフェッショナルだね！

ゆり 仕事だからね。ま、くそ客すぎたら容赦なく切るけど、本指に繋げたい客にはサービスしなくちゃだし。

さくら 繋げたい客？

ゆり 清潔で、そこそ良い人で、そこそこうまくて、尚且定期的に来れるお金を持つてそうな人。今日の人は清潔にできてくれたらクリアするんだけどね。

さくら なるほど、選んでるんだ。だから、ゆり姉のお客さん、太客多いんだ！

ゆり 客は論吉でしかないから。

さくら 論吉！

ゆり そう、ただの論吉。論吉様さまですよ。ってそろそろ勉強しなきゃ。コーヒーも落ちてるかな。

さくら さくら、持ってくるよ！

ゆり おー、ありがとう。

さくら、キッチンに向かい、その後マグカップを二つ手に持ち戻ってくる。そのマグカップをゆりから離れたテーブルの端に置く。

ゆり　　なんでそつちに置く。
さくら　一緒にケーキ食べようよ！
ゆり　あのねー、勉強するって言ったでしょ。
さくら　だって今日記念日だよ！
ゆり　記念日？
さくら　うん！　今日は何の日でしょう？
ゆり　いや、わかんない。
さくら　ちよつとは考えようよ！
ゆり　えー。記念日だったってあなたの誕生日は先月終わったし。え、何の日なの？
さくら　なんと今日でゆり姉と一緒に暮らし始めて一年経つのです！（拍手しながら）パチパチパチー！
ゆり　あー、そうだったっけ。あなた、よくそんなこと覚えてるわね。
さくら　覚えてるよー、そりゃあ。記念日は忘れないもの。
ゆり　記念日ねー。部屋貸してくれてた人の奥さんにバレて、家追い出されたのが記念日？
さくら　うっ……。
ゆり　しかも性病移して、性病科の診察券で奥さんにバレるってさ。
さくら　宮下さんは、相手に性病になったって伝えるのは大事だって、偉いって言うてたよ。
ゆり　あー言うってたね。そこなのかよって思ったわ。
さくら　でもそのお陰でこうしてゆり姉と一緒にいれるわけだし！
ゆり　あんたが勝手に押しかけてきただけだけだね。
さくら　一応セフレのともも考えたんだけど、皆彼女いたから、ゆり姉しかいないって思ってた！　岡つちも「いいんじゃないですか」って言うてたよ。
ゆり　うん、突っ込みどころありすぎてどこから突っ込めばいいのか。てか岡田さんのあれは、ただ面白がってただけだし。ホント性格悪い。……にしても一年か。そもそも部屋見つかるまでって言うてたのに、こんな居つくなんて。でもゆり姉、さくらが来て楽しくなったでしょう？　それに、お部屋だってさくらが住むようになって、喜んでたもん。住んでくれてありがとうって！　何それ。
さくら　だから喜んでたんだよ、お部屋が！
ゆり　バツカみたい。
さくら　バカだもん！

ゆり わかったわよ。さみしい部屋に住んでくれたおバカなさくらさんのとの記念

日ですから、あと五分お付き合いましたよ。

さくら えー！ 五分って短いよ！

ゆり、スマホのアラームを設定する。

さくら 何してるの？

ゆり ん？ 五分後にアラームなるように設定してたの。

さくら そんなことしなくてもいいよー！

ゆり もうあと二か月したら司法試験だから。今追い込みなのよ。それ終わったら時間できるから。ね？

さくら ……（コーヒーをゆりの近くに置いて）そんなに大変なの？

ゆり まあね。昔大学でも勉強してたんだけど、それも十年前の話だし、色々変わってることもあって。

さくら 大学生のときも勉強してたんだ？ はじめて知った！

ゆり 実はね。

さくら でも弁護士さんってそんなに試験あるものなの？ 去年もずっと試験受けてなかった？

ゆり 去年は司法試験を受けるための予備試験っていうのを受けてたから。

さくら 予備試験？

ゆり そう。五月と七月と十月と三つの試験科目があって、それに受からないと司法試験を受けられないのよ。

さくら そうなんだ。ね、なんでゆり姉は弁護士になりたいって思ったの？

ゆり え？ 何いきなり。

さくら そういうの聞いたことなかったから。

ゆり うーん、そうね……昔はただ漠然とだったんだけど、店に入る前、ちょうど知り合いが裁判沙汰になってね。それ見てたら、こんな理不尽に物事は進んでいくんだって、悔しくなってきた。そんなとき、ここに面接にきたら宮下さんが弁護士の話してくれて。

さくら え？ 面接で？

ゆり 変なお客さんがきたら顧問弁護士もいるので安心してくださって。

さくら へー、そうなんだ。さくら聞いたことなかった。

ゆり

うん、いるのよ。でね、「顧問弁護士ですか？」って普通に聞いただけなんだけど、宮下さん「お困りでしたらご紹介しましょうか？」って。この人何者って思ったわよ。

さくら

宮下さんって、のほほんポワポワってしてるのに頼れるよね！
人を見る目がすごいのよね。で、その顧問弁護士さんを知り合いに紹介したんだけど、ずっと形勢が悪かったのに示談で済んで。

さくら

示談？

ゆり

話し合いで解決できたってこと。

さくら

へー。

ゆり

それで改めて凄いなって思ったんだよね。人の人生をどん底にも落とすけど、救ってもらえる。

さくら

ゆり姉が弁護士さんとか絶対良い弁護士さんになるよね！

ゆり

そうなるように頑張る。

さくら

うん！ ゆり姉が裁判やるときは見に行くね。

ゆり

見に行くって、別に見にきてほしいとかないけど。

さくら

やだ、行くの！

ゆり

あつそう、もう好きにすれば。

さくら

うん、好きにするー！ あ、ゆり姉！ ケーキ食べてね！ ゆり姉の好きな

ゆり

チョコレートケーキだよ！

さくら

明日食べる。

ゆり

なんで？

ゆり

こんな時間に甘いもの食べれないもの。私の分、冷蔵庫しまつていて。

さくら

……こんな美味しいケーキ冷蔵庫に閉まっちゃったら、朝起きるまでに冷蔵庫がパクパク食べちゃってるよ、きつと。

ゆり

食べるとしたら冷蔵庫じゃなく、あんたでしょう。

さくら

いやいや、冷蔵庫も食べたくなくなっちゃう位の美味しさなんだって。

ゆり

はいはい。

さくら

なんてったって、パティスリーリョーコの新作だし。

ゆり

……予約取れたの？

さくら

取れたのー。もう完売してるみたいだけど。これ三月の期間限定品だから今

ゆり

逃したらもう食べられないよー。

ゆり

……。

さくら

一日だけなら大丈夫だって。

ゆり

……。

さくら

……ゆり姉と一緒に食べようと思って買ってきたのになあ。

ゆり

……。

さくら (ゆりの分の皿を取って) 冷蔵庫にパクパクされる位なら、さくらが食べる！
ゆり わかったから。食べる食べる！
さくら (皿をゆりの前に戻して、にやりと) どうぞ。
ゆり (ケーキを食べて) ……リョーコめ。
さくら 美味しい？
ゆり 悔しいほどに美味しいわ。
さくら コーヒー多めに入れてあるから、お替りもありますよ！
ゆり 用意周到ね。
さくら さくらもやるときはやるのです！
ゆり それはそれは恐れ入りました。(コーヒーを一口飲んでから) で、何があるの？
さくら え？
ゆり あんたがここまでするって、何かあるんでしょ？
さくら ふふふー、ゆり姉のそういうところ大好き。
ゆり ありがとう。それで？
さくら ……あのね。
ゆり うん。
さくら えとね……。
ゆり うん。
さくら ……。
ゆり 早く言いなさいよ！
さくら うー……うん。

ゆりのかけたタイマーが鳴る。

ゆり あーほらもう五分経った！
さくら あーちよつと待って、ちよつと待って。言うから言うからー！
ゆり うん。どしたの？
さくら ……さくら、結婚することにしたの！
ゆり ……え？
さくら だから、結婚することにしたの！
ゆり ……。
さくら ……もー、何か言ってよー。
ゆり ……おめでとう。

さくら 何それ、冷たくない!?

ゆり いや、だって……え、結婚?

さくら うん、結婚!

ゆり だってあんた、そもそも彼氏いたの?

さくら 半年位前から付き合ってたの。

ゆり そうなんだ。……結婚、あんたが。……そっかあ、良かったね。

さくら うん!

ゆり おめでどう。

さくら ありがとう!

ゆり あーもう、ホント良かった。でも、そっか。最近リストカットもしてないみたいだったから、落ち着いてきたのかなって思ってたけど、その人のお陰だったのか。

さくら へへへへへー。

ゆり よし、今日はお祝いしよ!

さくら え、いいの!?

ゆり いい! 明日今日の分も頑張るから。

さくら やったー!

ゆり って近くに何かお店あるのかな。全然知らないから。

さくら さくら、お家でいいよ。

ゆり え、いいの?

さくら うん。ていうかお家が良い!

ゆり じゃあ折角だしお酒でも飲む?

さくら ゆり姉、お酒飲むの?

ゆり ここ二年飲んでないけど。一緒に乾杯したいしね。(襖奥に財布を取りに行き) お酒、ウチにないからコンビニ二行かなきゃ。何飲む? 買ってくるよ。

ゆりのスマホから電話の着信音が鳴る。

ゆり (画面を見て) 妹だ。

さくら さくら、ゆり姉が電話してる間に買ってくるよ! コンビニ隣だし!

ゆり え? でも——

さくら ゆり姉と早く一緒に飲みたいから! ゆり姉何飲む?

ゆり じゃあハイボールで。(お財布からお金を渡して)

さくら おけ!

さくら、コンビニに行く。
ゆり、電話に出る。

ゆり

どうしたの、こんな時間に。もしかしてお母さんに何かあった？ ……うん、元気だよ。ごめんね、最近全然帰れてなくて介護任せきりで。…私はやりたいことやらせてもらってるし、お金送る位しかできないから。…二か月後。まあとにかくやるしかないって感じ。…うん、ありがと。…葉書きってどこから？ ……ホームカミングデーか。悪いけど不参加に丸つけて返信してもらえるかな。…いや、どうせ自慢話し合いたいただろうし、それにあの人も来るかもしれないし。…あー覚えててくれたんだ。…時間ってあつという間に過ぎるのね。この三年怒涛のように過ぎて行って、まあ色々あったっちゃ色々あるけど。未だに病室に通ってたあの頃が、い最近に思えたりもしてさ。

コンビニから帰ってきたさくらが、ハイボールの缶を二本持って入ってくる。

ゆり

…でもね、ウチの前に桜の木があるんだけど、今朝桜が咲いてのを見て、綺麗だなんて思えたんだよね。命日の日には満開になってそう。…うん、だから大丈夫だよ。私の事はいいから何かあったらいつでも連絡してよね。…うん、連絡ありがと。またね。

さくら

電話終わった？

ゆり

ああ、うん。もう買ってきたんだ。おかえり。

さくら

ただいま！

ゆり

ありがとね、買ってきてくれて。

さくら

ううん。はい、これおつり。

ゆり

どうも。

さくら

命日って、ゆり姉のパパ？

ゆり

え…うん、そう。

さくら

そうなんだ。いつ？

ゆり 三十日だけど。

さくら さくらもゆり姉と一緒に線香あげたい！

ゆり ……ありがとう。喜ぶと思う。

さくら (仏壇を見て) ゆり姉のパパって、どんな人だったの？

ゆり 別に普通のサラリーマンよ。

さくら 普通？

ゆり うん、全然できる人じゃないし、どちらかというところどんくさい人だった。

さくら 可愛い人だね。じゃあゆり姉のママはしっかりした人とか？

ゆり そうね、しっかりしてた。お父さんが亡くなってからボケちゃったけど。

さくら そうなんだ。でも妹さんと命日の話するとか仲良かったんだね。

ゆり ……そうだね。それより二本しか買ってこなかったの？

さくら 飲まない分、冷蔵庫しまつといた。

ゆり そう。何本買ってきたの？

さくら 八本！

ゆり って流石にそんな飲まないでしょ！

さくら だってハイボール四種類もあったから悩んじゃって。ゆり姉と同じの飲みた

かったから二本ずつ買ってきたの！

ゆり まあいいけど。よし、飲もう！ 乾杯しよ、乾杯！

さくら うん！

二人、ハイボールの缶をそれぞれ持って。

ゆり うっし。それでは、結婚を祝って、乾杯！

さくら 乾杯！

二人、乾杯する。それぞれ飲む。

ゆり はー、久し振りに飲んだけど美味しいな。祝い酒だからかな。

さくら ゆり姉とお酒飲めるなんて嬉しいな。

ゆり そんな大げさな。

さくら 大げさなんかじゃないもん！

ゆり ……で、どんな人なの？ その結婚する人って。

さくら えつとね、優しい人。それにすごく紳士的でね、車乗るときとかお店入るときとかエスカレーターしてくれるの。

ゆり うん、エスコートね。

さくら (ゆりに構わず) デートのときはいつも手をつないでくれるし。あ、料理も上手！ さくら、男の人に料理作ってもらったの、洋ちゃんが始めてだったの！ もうね、さくらが作るより、うんと上手！

ゆり あんた料理しないでしょ。

さくら さくらバカだからさ、一般常識とかマナーとかわかんないし、敬語とかも全然できなくて、よく呆れられるじゃない？ でもね、洋ちゃんはさくらのわからないことがある度に一つ一つ丁寧に色々なこと教えてくれるの。

ゆり じゃあ、すっかりした人なんだ。

さくら うん。それにリスカもね、洋ちゃんが「今度リスカしたら俺も自分の切るから」って言ってきて。

ゆり え？ すごい人ね、その人。何やってる人なの？

さくら なんとなんと！ ゆり姉が毎日お勉強中のものであります！

ゆり え？ って弁護士？

さくら そうそう。

ゆり へー！ 何歳？ 弁護士なってもう長いの？

さくら 三十四歳。二十二歳から弁護士やってるんだって。

ゆり 二十二から！？ それまた随分優秀な人ね。

さくら うん、すごく頭良いよ。てか、なんか頭良すぎてたまに何言ってるかよくわかんないもん。

ゆり それはあんたのオツムが足りないだけでしょ。

さくら あはは、そうかもー。てか、なんかゆり姉とちよつと似てるの。性格とかじゃないんだけど、雰囲気がなんかこう、ツンツンゆるゆるーってしてるの。

ゆり いや、よくわからないんだけど、それ。どこで知り合ったの？

さくら えと、その……ウチの店？

ゆり ……ウチの店って、お客さん？

さくら うん、そう。

ゆり あんた、大丈夫、それ？ はっ、もしかしてセックスの相性がいいからとかそんなじゃないでしょうね。

さくら 違うよ！ 洋ちゃん、むしろセックス下手だし！

ゆり え、下手なの？

さくら そうなの、そこだけが物足りない。

ゆり へー。

さくら でも出会ったばっかのときよりは上手になってきたから！

ゆり 研究しあってるのか。

さくら 研究しあってるよ！ いやー、長い道のりだった。

ゆり そうなんだ？

さくら うん。だって最初会ったときは、何この人って感じだったし。

ゆり え、どんな感じだったの？

さくら セックス終わって残り時間世間話とかするでしょ。それで「さくらちゃんは どうして働いてるの？」って聞かれて。

ゆり あーいるよね、聞いてくるお客さん。

さくら で、セックスが好きだからだよって答えたのね。そしたら「本当に？ お金の為とかじゃなく？」ってもうすんごいしつこく聞いてきて。

ゆり え、めっちゃウザいじゃん。

さくら うん、めっちゃウザかったの。もう帰るギリギリまで「本当に大丈夫なの？」

って言うてるから「さくらにとつて風俗は天職なんです。だからあなたみたいにセックスが下手な人は物足りないの」って言ったのね。

ゆり マジか。それで？

さくら もう来ないかなーって思ってたんだけど、一週間後にまた来て。

ゆり いやー、タフな人だねー。

ね。で、服脱がせようとしたら「今日はしなくていい」って言って。

ゆり ほー。まあいるけどね、そういうお客さんも。てことは、ずっと話してたとか？

さくら いや、セックスした。

ゆり え、したの？

さくら うん、した。てか、さくらが襲った。

ゆり まあ、あんたらしいっちゃらしいけど。

さくら で、そのときも色々しつこく聞いてきたから「面倒臭いんで、もう指名しないでください。さくらはセックスがしたくて働いてるんで、あなたみたいな人は求めてないんです」って言ってやったの。

ゆり なのにまた来たよ。

さくら また来たんだよ。この人バカなのかなって思ったもん。

ゆり なんだろうね、精神的M男なのかね。

さくら セックスはどっちかというときだよ。

それは聞いてないけど。てか、何がきっかけで付き合うことになったのよ。

あるときね「源氏名つけよう」って言うてきて。

ゆり 源氏名？

さくら うん。さくら、自分のことさくらって言うから、お店入るときも間違えちゃいそうだったし、そのまんまにしてただけど。「本名でやってたら傷つかない

い？」って言われて。

ゆり

あー、まあダイレクトに言葉は入ってくるしね。

さくら

でもさくら、そんなこと考えたこともなかったからビックリしちゃって。その日の帰り際に、はじめて「またね」って洋ちゃんに言ったの。そしたら洋ちゃんガッツポーズして。洋ちゃんってね、格好良いんだけどすごい無愛想で、その無愛想な顔のまんまでガッツポーズするから、さくら待機所戻ってからも暫く笑いおさまらなくて、「面白い人だなって思ったの。」

ゆり

そうなんだ。

さくら

うん。それから定期的に来てくれて、色々話してる内に、洋ちゃんという心が落ち着くっていうか。なんかそういうの今までなかったなから戸惑ったんだけど。洋ちゃんが「付き合おう」って言うってくれて、それで。

ゆり

そっか。……でも良い人それで良かった。

さくら

うん、すんごく良い人だよ！

ゆり

店は？ 辞めるんでしょう？

さくら

うん。常連さんに挨拶してからって思ってたんだけど、ゆり姉も辞めるなら、そのとき一緒に辞めようかな！

ゆり

そっか。そういやお店には言ったの？

さくら

まだ言っていない。ゆり姉に一番に言いたかったし！ でも、前にもお客さんと結婚してやめた子いるらしいから大丈夫だと思う。

ゆり

え、そうなんだ。

さくら

十年位前かららしいけど、宮下さんが言ってた！

ゆり

それ、宮下さん最近言ってきたの？

さくら

うん。

ゆり

うわー、流石って言うかそこまでくると怖いわー。

さくら

え、宮下さん気付いて言ってきたってこと？

ゆり

そうじゃない？

さくら

えーそうなのかな。結婚のこというとき聞いてみよ。

ゆり

聞いてみて。で、報告よろしく。

さくら

わかったあ。ねえ、ゆり姉。お願いがあるんだけど。

ゆり

お願い？

さくら

えとね、今度洋ちゃんに会ってくれないかなあって。

ゆり

え？ 何で？

さくら

洋ちゃんにゆり姉の話したら、会ってみたいって言うって。

ゆり

別に構わないけど、あんた何話したのよ。

さくら

お母さんみたいいな人だって。

ゆり

……。

さくらら ってさくらママと一緒に住んでないし、家族っていうもの自体よくわかんないけど、家族と住んだりしたらこんな感じなのかなーって。

ゆり ……そう。

さくらら うん。なんかさ、よく皆、お父さんお母さんうざーいとか言ってるでしょ？
そういうのもよくわかんなくって、でもなんかいいなって思ってたの。一緒に住み始めたころのこと、覚えてる？

ゆり ん？

さくらら 「荷物置きっぱなしにしない！」「食器は食べたらずぐ片付ける！」「電気つけっぱなしにしない！」っってもうさくら、めっちゃゆり姉に怒られたじゃない？

ゆり そうだったね。

さくらら あれさ、実はすごい嬉しかったんだよね。そんな風に怒ってくれる人、それまでいなかったから。

ゆり そういえばあんだ、あの時怒っても怒ってもニヤニヤしてたもね。

さくらら そう！ それで、「怒ってるのにどうしてそんな笑ってるの！」ってまた怒らせちゃってさ。

ゆり あったね、そんなことも。

さくらら んねー。

二人、思い思いに耽る。
少しの間。

ゆり 洋ちゃんさん？ 今度予定聞いたよ。私もスケジュール見てみるから。

さくらら 会ってくれるの！？

ゆり うん。

さくらら やったー！ はっ、そうになると洋ちゃんに連絡しなきゃだ！

さくらら、スマホを手に取り、早速ラインをする。

さくらら よし、送信！

さくら、スマホをテーブルの上に置き、スマホに両手をかざす。

ゆり ……何やってんの。

さくら すぐに返信が来ますようにって。

ゆり それですぐ来たらすごいわ。

ラインの着信音が鳴る。

二人、顔を見合わせる。

ゆり まじか。

さくら (スマホを確認して) ……うう、違った。

ゆり まあ、そりやそうだよねえ。……あ、そうだ。あんた、その洋ちゃんって人の写真とかないの？ 見せてよ。

さくら うん！ ちよつと待ってねー！ (画像をさがして) じゃじゃーん！ この人！

さくら、ゆりにスマホを渡し、画像を見せる。

ゆり、それを見て固まる。

ゆり ……。

さくら 格好良いでしょう！ 私服姿も素敵だけどね、スーツ姿がまた最高に格好良いの！

ゆり ……。

さくら 身長も一八三センチあるの！ スラってして見えるんだけど、脱いだら結構がっしりしててね、ぎゅーってしたら丁度良いフィット感なの！

ゆり ……。

さくら ってもう、そんなじーつと見ちゃって！ いくらゆり姉でも洋ちゃんのこと好きになっちゃ駄目だからね！

ゆり ……。

さくら ……ゆり姉？ どうしたの、そんな固まっちゃって。

ゆり (絞り出すように) この人に私のこと話したって、何を話したの？

さくら え？ 何をつて、さつき話したじゃん！

ゆり そうじゃなくて！ ……あ、私の顔は知らないのよね。

さくら うん。あ、でもお店のグラビア写真は見てるんじゃないかな？

ゆり ああ、あの写真ね……。

さくら うん。ゆり姉のあの写真、あの加工の入れ方ないよね。なんか整形してますーみたいな加工でさ。全然ゆり姉の良さが出てないっていうか！ ゆり姉も撮り直せばいいのに。

ゆり (スマフォをローテーブルに置いて) ……この男はやめときなさい。

さくら え？

ゆり この男はやめときなさいって言ったの。

さくら ……え、なんで？ いきなりどうしたの？ ゆり姉、さつきまで良いって言うてくれてたじゃない。

ゆり ……黒川だとは思わなかったから。

さくら え、ゆり姉、洋ちゃんのこと知ってるの？

ゆり ……。

さくら あ、そっか。ゆり姉も洋ちゃんについてたことあるとか？ つて、そしたら会いたいって言わないか。え、何で知ってるの？

ゆり ……昔結婚してたの、黒川と。

さくら ……え？

ゆり まさかあんたが結婚したって人が黒川だったなんて……。

さくら ……そんな、さくら、ゆり姉が結婚してたなんて知らないよ。

ゆり 過去のことをいちいち言わないわよ。それに、あいつのことなんて思い出したくもなかったし。

さくら え、待ってよ。だって、洋ちゃんだって昔結婚してただなんて言うてなかったよ？

ゆり あいつも私とのことはなかったことにしてたんでしよう。それだけのことよ。え？ え？ ちよつと待って。なんか、え？ よくわかんないよ……。ゆり姉が洋ちゃんの元奥さん？ え？ でも、そしたらおかしくない？ 洋ちゃん、ゆり姉に会いたいわって。元奥さんに会いたいわって言うものなの？ 似てる人とかじゃないの？

ゆり あのグラビア写真しか見てなくて、ゆりって話してるならわからないでしょう。

さくら どういうこと？

ゆり ゆりは源氏名なんだから。

さくら あ、そっか。そうだよ、さくら、そのまんま使ってるから……。

間。

ゆり とにかく黒川だけはやめときなさい。私は反対。

さくら ……なんで？ なんで反対なの？

ゆり ……。

さくら 離婚しちゃったってことは何かうまくいかなかったのかもだけど、ゆり姉だって前に洋ちゃんと結婚してたってことは、洋ちゃんのこと良いって思ったからじゃないの？

ゆり ……。

さくら さくら、反対する理由がわかんないよ。

ゆり ……。

さくら なんで？ いつものゆり姉だったら、反対だったら反対で理由も言ってくれ
るじゃない。

ゆり ……。

間。

さくら ……ねえ、ゆり姉、まさかだけど、洋ちゃんのこと引きずってたりしないよ

ね？ それで反対してたりとかないよね？

ゆり 引きずってなんかないって。

さくら じゃあどうして？

ゆり ……。

さくら ねえ、ゆり姉！

間。

さくら 何で？ 何で何にも言ってくれないの？

ゆり あんたが思っているようなことは何も無いわよ。

さくら ……じゃあ何でさっきさそう言わなかったの？

ゆり ……あんたはあいつのことわかってないのよ。

さくら ……何それ。自分は洋ちゃんのこと何でも知ってますみたいな言い方しちゃうって。

ゆり 別にそういうことが言いたいんじゃないわよ。

さくら じゃあ何？ ゆり姉、いつも言ってたよね。恋愛はこりごりだって。それって洋ちゃんのこと？ 本当はずっと忘れられなかったんだ？

ゆり 違うわよ！

さくら 弁護士になりたいのだから、本当は洋ちゃんが弁護士だからじゃないの？

ゆり 違うって言うてるでしょう！

さくら じゃあ何なの！ 言ってくれなきゃわかんないよ！

ゆり ……。

間。

さくら もういい。ゆり姉にどんなに反対されたって、さくら、洋ちゃんと結婚するから。

ゆり さくら！

さくら ゆり姉が洋ちゃんのことどう思ってたって、それもう昔のことだよ。洋ちゃん、結婚しようって言ってくれたの。幸せにするって。何も無いって言うなら、さくらがどうしようと勝手にしょ！

ゆり あいつと結婚して幸せになれなくなるわけない！

さくら だから何で？ さくらはゆり姉とは違うもん。さくらは洋ちゃんと幸せになってみせるもん！

ゆり あいつがDV男でも！？

間。

さくら ……え？

ゆり ……。

さくら ……何言ってるの、ゆり姉？

ゆり だから、あいつはDV男だと言っててるの。

さくら ……意味分かんない。洋ちゃんがDVするなんてありえないよ。

ゆり あんたが知らないだけよ。

さくら 嘘！

ゆり 嘘じゃないわよ。私はずっとあいつから暴力受けてたんだから。

さくら ……。

ゆり あいつはそういう男なの。

さくら ……でも、洋ちゃん、さくらにはすっごく優しいよ？

ゆり 最初はね。私だつてそう思つて結婚した。

さくら でも昔の話でしょ？ 今は変わったかもしれないし……。

ゆり ああいう奴は何年経つたつて変わらないの。

さくら ……。

間。

さくら ……何年前？

ゆり (さくらの顔を見る)

さくら ゆり姉が洋ちゃんといたのつて、何年前？

ゆり ……十年前に結婚して、離婚したのは二年位前。

さくら 二年前つて！ え、さくらがはじめて会つたのもその頃だよね？ あの時、

離婚したばつかだつたつてこと？

ゆり あの時はまだ籍は入つてた。ちようど離婚調停してる最中だつたから。

さくら ……離婚調停？

ゆり そう。向こうは離婚に反対だつたから、色々揉めて。本当大変だつた。弁護士を雇うのにお金も必要だつたし、いろんなものがどんどんどんどんすり減らされていって。とにかく必死だつた、どうにかしなくちゃつて。まさか自分が風俗で働くだなんて思つてもみなかった。

さくら ……。

ゆり そんなときよ、あんたと出会つたのは。

さくら ……そうなんだ。

間。

さくら ……でも、さくら全然想像つかないよ、洋ちゃんがそんな……。

ゆり そうでしょうね。

さくら ゆり姉と別れてから二年経ってるし、洋ちゃんも変わったかも――。

ゆり (さくらを無言で見つめる)

さくら だってわかんないじゃん！ さくらもこの二年で変わったよ？ 洋ちゃんが
変わらないって、なんでそんなこと言い切れるの？

ゆり ……六年間、DV受け続けてたって言ったら？

さくら え？

ゆり そんな簡単なことじゃないの、あれは。

さくら そんな……だって……だって、信じられないよ。あ、ゆり姉のことじゃない
の。ゆり姉が信じられないとか、そういうことじゃないの……。

ゆり ……。

さくら DVって、暴力ってそんなに酷いものだったの？

ゆり ……。

さくら あ、ごめんなさい！ 言いたくないよね、ごめんなさい。

ゆり 別に大丈夫よ。

さくら ……うん。

間。

ゆり 最初はね、あんたも言うとおりの優しい人だった。出会ったとき私も若かった

し、勢いで結婚しちゃったのね。あいつは弁護士になってまだ二年目で駆け
出しだったから、勉強勉強でなかなか時間もなかったけど、それでもなんと
か時間を作って会ってくれた。だから私だって信じられなかったわよ、あ
い
つがあんな風になるなんて……。

間。

ゆり 結婚して一年位経った頃、最初は言葉遣いがきつくなっていた。でも、仕

事がうまくいってないからだって、そう思ってた。きつと落ち着いたら戻る
だろうって。でも、どんどんどんどんエスカレートして行って、物を投げつ
けるようになった。ゴミ箱が転がって、中に入ってたゴミがそこら中に飛び
散った。部屋に置いてた観葉植物も倒れて土が散らばって。お皿なんかも飛
んできた。ガチャンって食器の割れる音。料理でぐちゃぐちゃになったカー

ペット。……そのうち暴力もはじまった。殴られて髪を引っ張られて、あざがついたり血が出たりなんてしよっちゅう。しまいには首を絞められた。それで動けなくなった私を見てあいつは我に返るの。「ごめん、ごめん」って。大の男が涙を流しながら私に言うのよ。……そんなことがずっと続いたの。

さくら

……。

ゆり

……。

さくら

……。

ゆり

……。

さくら

……。

ゆり

……。

さくら

間。

ゆり、さくらのケーキをフォークに乗せ、さくらの口に突っ込もうとする。

ゆり

ん。

さくら

何？

ゆり

ほら、食べて。

さくら

何で？

ゆり

いいから。はい。

さくら

……。(ケーキを食べる)

ゆり

はい。(グラスをさくらの口元まで近づける)

さくら

だから何！

ゆり

いいから飲む！

さくら

何なのさ……。

ゆり

とにかく食べて飲んで忘れるの！

さくら

忘れる？

ゆり

そう、忘れる。

さくら

忘れる……忘れるなんて、そんなのムリだよ……。

ゆり

……。

さくら

さくらにとって洋ちゃんは――。

ゆり

……。

さくら

……。

ゆり

……。

さくら

……。

ゆり

……。

さくら

……。

ゆり

……。

さくら

……。

ゆり

間。

さくら ……はじめてだったの。

ゆり え？

さくら セックスしてなくても安心できたの、洋ちゃんをはじめてだったの。それに何もなくてもさくらと一緒にいてくれたの。必要としてくれたの。そんなの洋ちゃんだけだもん。

ゆり ……。

さくら さくら毎日セックスしないと怖くて。誰にも必要とされてないみたいで、どこにいったらいいのかわからなくて。ゆり姉とかお店の女の子皆嫌だーって言いながらも働いててさ。お金の為とか夢の為とか家族の為とか凄いなって思うの。さくらはそういうのホント何にもなくて、空っぽで。…でもセックスするときには皆さくらのこと必要としてくれるから。皆いっぱい愛してくれるから。それにぎゅーってしてもらうと、あーここにいるって感じるの。セックスだけだったの、さくらのこと埋めてくれるの。こんなのおかしい、だめだって思ってたけどやめれなくて。でも洋ちゃんと会って変われるって思ったのに…。

間。

さくら ねえ、ゆり姉。さくら、どうしたらいいの？ どうしたらいいのかわかんないよ。洋ちゃんのこと、この人ならって思ったの。でも、違うって。さくら、

ずっといてくれるなら暴力だってなんだって平気だよ。それじゃダメなの？

ゆり そんなのダメだって！

さくら でも……また一人になるの？ やっぱりさくらは誰かと一緒にかなれないんだ。

ゆり そんなことないから。

さくら ううん、そうなんだよ。さくら悪い子だから。悪い子は誰かと一緒にいる資格なんてないよね。

ゆり 悪い子なんかじゃないでしょ。

さくら 悪い子なんだよ！ だから、パパもママも――

ゆり ……。

さくら どうしてこうなっちゃうの。いつつもう。自分で信じたものが、信じたい

って思ったものがバラバラって消えちゃうの。いつともいつも消えてっちゃうの。(呼吸が荒くなっていく)そう、バラバラって。皆いなくなるの。皆、さくらの前からいなくなるの。やだよ、やだよ、やだよ、やだよ、やだよ！

(さくらの腕を両手で掴んで)落ち着いて！

ゆり姉もいつか、いなくなるの？

え？

皆そうだから。皆こうやって掴んでくれたって思っても、結局さくらの手を振り払ってくの。バシんって。それで簡単にいなくなるの！(ゆりの手を振りほどいて)そうだよ。そうだよ。さくらが誰かに必要とされるなんてあるわけないよね。だって、さくらいらぬ子だもん。

いらぬ子なんかじゃないって。

いらぬ子だよ。だって言った。あのパパとママの目。お前はいらぬって。

いらぬ子だって――

そんなこと言わないでよ！

だって言ったの！――

ゆり、さくらを抱きしめる。

さくら

――。

ゆり

お願いだから、そんなこと言わないで。

さくら

……。

ゆり

いらぬなんつて。私はあんたに救われたんだから。

さくら

(ゆりの顔を見る)

自分のこといらぬなんつて、そんな悲しいこと言わないでよ。

間。

ゆり

……私ね、子供がいたの。

さくら

……え？

ゆり

さくらって名前の子。

さくら

……さくら？

ゆり

そう、あんたと同じ名前。(仏壇を見て)三年前に病気で亡くなっちゃったん

だけどね。

さくら (仏壇を見る)

ゆり あいつに暴力されても別れなかったのはさくらがいたから。さくらがいたから、私どんなことされても耐えられた。でもさくらがいなくなっちゃって私どうしたらいいのか分からなくなっちゃってね。私にとって、さくらが全てだったから。

さくら

ゆり 宮下さんに「さくらさんです」ってあなたのことを紹介されたときね、私正直あなたにあんまり関わりたくないって思ってたの。

さくら ……え？

ゆり 別にあんたはあんたなのにね、あのときは「さくら」って聞くとキツくって……。

ゆり なのにあんた、「ゆり姉ー！」ってうざい位寄ってくるんだもん。

さくら ごめん……。

ゆり 本当だよ。しかも自分のこと「さくらねー」って名前で言うし？ いい歳して「私」ってきちんと見えよって思ったわ。

さくら すいません……。

ゆり しまいにはウチにまで住み始めるし、どんな神経してるんだって思ったけど。でもこの一年あなたのお陰で幸せだなって思ってたの。

さくら ……幸せ？

ゆり うん、幸せ。……私ね、さくら……あ、自分の子供と一緒に住んだことないの。

さくら ……どうして？

ゆり あの子、生まれたときから心臓の病気があって、ずっと入院してたの。

さくら そうなんだ……。

ゆり あんたが私のことお母さんみたいって思ってくれてたように、私もあなたのこと、まあ子供とまでは思っていないけど。でもあなたと住み始めて、あんたが頼ってくれたり、甘えてくれたり、そういうの実は嬉しかったの。

さくら ……そうなの？

ゆり そうなの。あんたさつき、自分は必要とされてないなんて言ってたけど、そんなことないから。少なくとも、私はあなたのこと必要としてる。それに……黒川も、あの人も弱い人だからあなたのことを本当に必要としたんだと思う。でも黒川は駄目。あなたには私みたいな思いしてほしくないの。(さくらの左腕を取って) これ以上傷ついてほしくないのよ。

さくら ……。

さくらのスマホから着信音が鳴る。
二人、さくらのスマホを見つめる。
少しの間。

着信音が止まる。

さくら、スマホを見つめ続ける。そんなさくらを見つめる、ゆり。
ラインの着信音が鳴る。

さくら、一呼吸してからスマホを取る。

さくら (画面を見て) ……三十日、大丈夫ってきた。

ゆり ……わかった。その日は何も予定入れてないから大丈夫って伝えて。

さくら ゆり姉、三十日って……。

ゆり ……帰ってきたら一緒にお線香あげてくれる？

さくら ……帰ってきたら？

ゆり うん。帰ってきたら。

さくら ……うん。

ゆり で、夜はあそこの窓開けて、桜でも見ながらまたお酒でも飲もうよ。ハイボールまだいっぱい残ってるし。家でお花見するの。どうよ？

さくら さくら、お花見ってしたことない。

ゆり そうなの？ じゃあ来年はさ、あなたの誕生日にもお花見行こうよ。

さくら え？ お花見って、さくらの誕生日、二月だよ？

ゆり 寒い時期に咲く桜もあるのよ。カンザクラっていう桜なんだけど。

さくら そんなのあるの？

ゆり うん。カンザクラの花言葉の一つに「あなたに微笑む」っていう言葉があるんだけどね。

さくら あなたに微笑む？

ゆり そう。一足先に咲くカンザクラを見て、もうすぐ春だなんて思い出させて笑顔にさせてくれる。……あなたにぴったり。

さくら ……どうということ？

ゆり さくらには、皆を笑顔にする力があるってこと。

さくら ……。

ゆり 知ってる？ 笑顔にする力を持つてる人は、愛されるんだよ。

さくら ……。

さくら、いきなりハイボールを一气飲みする。

ゆり え!?

さくら (一本飲み切って) お酒は残らない!

ゆり はっ!?

さくら 食べて飲んで忘れるの! って忘れられる自信ないけど、とにかく飲むの!

さくら、キッチンにハイボールを取りに行く。

ゆり ……そんなすぐには無理でしょうよ。でもそうね。

ゆり、ハイボールを一气に飲む。

そこに、さくらがコンビニ袋に入ったままのハイボール六本を持ってくる。

ゆり (飲み切って) 今日は付き合うわよ。

ゆり、さくらに向かって腕を伸ばす。

それを見て、ハイボールを一本渡すさくら。

二人、それぞれ缶を開け、お互い見合う。

二人 ……乾杯。

二人、乾杯をする。

暗転。

—幕—